



子育て情報 5月号

平成 29 年 5 月

椋山女学園大学附属幼稚園

はじめまして

園長 横尾 尚子

幼稚園生活も早1ヶ月が過ぎました。

椋山幼稚園はいかがですか？ お子さんは楽しんで登園されていますか？

新入園のみなさん、はじめまして。園長の横尾尚子(よこお なおこ)です。椋山女学園大学の教員との二足のわらじを履いていますので、幼稚園に居ない日もありますが、どうぞよろしくお願ひします。大学では教育学部に所属し、保育士並びに幼稚園教諭・小学校教諭の養成に携わっています。専門は発達心理学で、九州人です。大学では旧姓使用のため、石橋尚子(いしばし なおこ)と名乗っています。園長になったばかりの頃はなんだか二人の私がいるようで、戸惑ったり、面白がったりしていましたが、幼稚園での生活が長くなるにつれて、横尾尚子の方が私の中で大きくなってきました。少しは園長職が身につけてきた証拠でしょうか…？

関東で学生をしている二人の娘を育てる母親でもあります。仕事と子育ての両立は綱渡りの連続で、悪夢としか思えない日も多々あったのですが、娘たちの笑顔と「ママ大好き」の言葉に励まされ、なんとか今日までやってきました。下の娘も今春大学生3年生となり、次の悩みの種は就職のようです。東京での一人暮らしが「寂しい」「怖い」と、泣いて電話をかけて来た入学時。今すぐ飛んで行ってやりたい気持ちを抑えては、眠れぬ夜を過ごしたことが昨日のように思い出されます。子どもが幾つになっても、心配の種は尽きないようです。娘達の成長に伴い、子育ての苦労と喜びは徐々に変化してきました。それと歩調を合わせて、私も親として育ってきたように思います。「子育ては親育て」だそうです。私らしい親に育って行きたいものです。

それから、小学校と中学校の教員をしたこともあります。小学校で1年生を担当した時に、幼稚園のお泊まり保育に参加して、幼い子ども達の素晴らしさに目をうばわれました。「小学校の教員を続けるためには、きちんと幼児期を理解しておかなくちゃ」。それが、大学院で幼児心理学について学ぶきっかけとなりました。在学中に地元佐賀県の採用試験受験年齢(当時28歳まで)を超えてしまって、小学校には戻れませんでした。椋山幼稚園の子ども達と一緒に生活できることになって、とっても喜んでます。

自己紹介が随分長くなってしまいました。話を幼稚園に戻しましょう。

3歳での入園にはどのような意義があるのでしょうか？3歳頃になると、子どもは、身のまわりの世界への興味・関心、人とのつながりを急速に広げはじめ、親への全面的な依存から徐々に自立へと歩みだします。幼稚園は、このような子どもの発達を踏まえ、初めての集団生活の中で、一人ひとりの持ち味や可能性を大切に育てる場です。また、幼稚園では、先生との信頼関係をベースに、たっぷり遊んでぐんぐん発達していきます。この時期に思いっきり遊ぶことによって、長い人生の基盤が培われ、その後の学びや創造性が豊かになると言われています。この椋山幼稚園で、幼稚園教育のよさを充分に感じていただければ幸いです。

お子さんと保護者の皆さんがキラキラの幼児期を過ごされますように！

椋山幼稚園職員全員で幼稚園教育に尽力いたします。

ご支援・ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。